CPU機能付ネットワーク 対戦型 リバーシゲームシステム

グループ9 プロジェクトラーニング**2025** プロジェクトI 成果報告会

2025年5月20日

2 はじめに

• グループ**9**で開発した**CPU**機能付ネットワーク対戦型リバーシゲームシステムについて説明します。

- 本システムの特長:
 - 2つの対戦方法
 - CPUの難易度(探索アルゴリズムの利用により)
- 様々な工夫
 - GitHub上で作業
 - 資料リアルタイム共有

3 開発グループ紹介

- マネージャ: 西村岬
- クライアント担当: 大久保徹朗、アズリ
- ・サーバ担当: 辻一希、谷陸央

4 付加機能に関する要求事項と設計指針

• 付加機能

• CPU対戦機能:ゲーム開始時にスタートメニューを表示し、ネットワーク対戦とCPU 対戦を選べるようにする。また、CPU対戦では、始めるまえに難易度と先手後手の選 択画面を設ける。



- 設計方針
 - ・まず、ネットワーク対戦とCPU対戦を選ぶ
 - ネットワーク対戦用の名前入力画面か、CPU用の強さと先後選択
 - 共通管理できる部分は共通させる。

5 システムの全体構成



- Client
 - 全体を統括
- View
 - ・画面表示、ユーザの入力受付
- Othello
 - 有効手の判定、石を返す処理など
- CPU
 - CPUの手番の計算

6 アピール点1:コンピュータ対戦機能

- ・手番, 難易度(3段階)を選択可能
- ・難易度によって
 - 1. 探索する深さ
 - 2. 残り何マスで完全探索を開始するかが変更される。
- 「強い」はほとんど勝てないレベル



7 アルゴリズム1:盤面の評価

予め用意したテーブルにより探索後 の盤面のスコアを評価する

- ・角は高スコア
- ・角の隣接マスは低スコア
- ・序盤石が多いと不利になるというオセロ の特性にある程度沿っている。



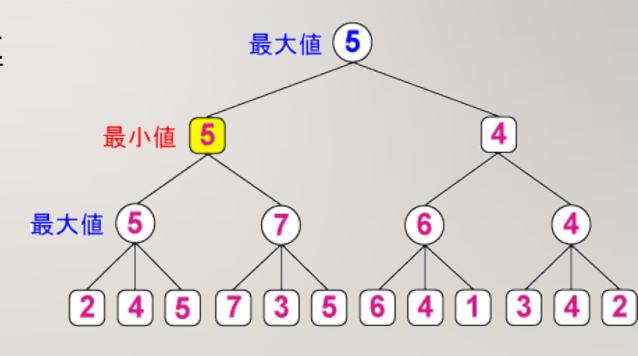
https://uguisu.skr.jp/othello/5-1.html

アルゴリズム2:最善手の探索

定められた深さだけ未来の盤面を計算 し、スコアの高い手を選択する

- ・自分はスコアを最大化する手を選びたい。 相手(プレイヤー)はCPUのスコアを最低化す る手を打つと仮定。(minimax法)
- ・全ノードを探索するのは非効率なので、枝 狩りを行う。

(alpha-beta法)



https://uguisu.skr.jp/othello/minimax.html

9 アルゴリズム3: 完全探索

終盤は深さを考えず、対局終了まで探索を行う

- ・対局終了時の盤面を見て勝敗に応じた基礎スコア+石差でスコアを 導出。
- ・最も勝ちそうな、(負けるとしても接戦で負けそうな)手を選ぶ。
- ・完全探索の実装によって、終盤が強いCPUとなった。

10 アピール点2:開発における工夫

- コミュニケーションツール: Discord
- 作図ツール: draw.io
- コードエディタ: VS Code
- バージョン管理システム: Git
- Gitのホスティングサービス: GitHub
- ドキュメントのリアルタイム共有: Word, PowerPoint

| デモ(ネットワーク対戦)

- ・ネットワーク対戦の接続の様子を実際に行います
- 手順:
 - (1)サーバープログラムを起動し、2台のPCでクライアントプログラムを起動する。
 - (2)クライアント側のメニュー画面でプレイヤー名を記入し接続を待つ。
 - (3)対局を進める(略)

12 デモ(対CPU)

- 付加機能であるコンピュータ対戦機能を行います
- 手順:
- (1) クライアントプログラムを起動し、メニュー画面で「対CPU」を 押下
- (2) 先手後手、CPUの強さ「強い」「普通」「弱い」から選択して「対戦開始」を押下し、対局が開始します(「先手」「強い」を選択)
- (3)対局を進める(略)
- (4)終盤の完全探索(動画)

ご清聴ありがとうございました